

後方支援スタッフ派遣プロジェクト34便 実施報告

立命館災害復興支援室は、東日本大震災被災地での復興支援の一貫として学生の後方支援スタッフ派遣を継続的に実施している。今回の34便は、昨年度の32便で実施した福島県楢葉町の方々の一人一人の想いによりそい、聞き取り、かたちとして残していく活動を継続するものとして、以下の目標を設定し、その実現に向けて、福島県楢葉町での「ならば31人の生の物語」インタビュー・ポスター作製、イベント出展、楢葉町・富岡町視察、仮設住宅訪問等の取り組みを行った。

<第34便活動目標>

- 「福島」や「楢葉町」と一括りに報道されることが多い中で、一人ひとりの想いを伝えるための媒体を作成する。
- 原子力発電所事故により避難を余儀なくされた町村の現状を知る。
- 現地の方々の“生”の物語を聴き、一人ひとりの想いがあることに気付く。
- 現地の方の顔や名前を覚えることができる深い関係を築き、継続的な支援につなげる。

1.実施概要

○派遣期間 2016年8月30日(木)～9月6日(火)

○訪問先 1福島県楢葉町(※1)、いわき市

○参加者 12名(男子5名/女子7名)

○スケジュール

8/3(水) 事前学習会(コンソーシアム京都)

8/30(火) 出発前学習会(コンソーシアム京都)→京都駅出発

8/31(水) いわき駅到着→現地視察(富岡町・楢葉町)→語り部の方を訪問→インタビュー練習
→ならばみらいの方々と懇親会

9/1日(木) 9/2(金) インタビューの実施と原稿作成

9/3日(土) インタビュー内容の原稿作成、ポスター作成

9/4日(日) 「ホツァーレ2016～復興記念の集い～」への出展→松館地区の方々と懇親会

9/5日(月) 仮設住宅訪問(32便で作成したフォトブックを届ける)

→ならばみらい・楢葉町役場の方と懇親会→いわき駅出発

9/6日(火) 京都駅到着

9/16(金) 事後学習会(コンソーシアム京都)



※1 福島県楢葉町

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故により全町避難を余儀なくされた。2015年9月5日には全町避難した町で初めて避難指示が解除され、人口7,359人のうち503人が町内で暮らしている。

(2016年4月30日現在)生活環境の整備の遅れや、放射能への不安などの様々な理由で町に戻るか迷っている人、新たな場所で暮らそうと決めた人、故郷に戻ろうと決意した人など町民の方々の抱える想いは様々である。

○引率 教職員・災害復興支援室スタッフ 計4名

山口洋典 (8/30～9/6)、廣井徹 (8/30～9/1)、河口麻衣 (9/2～9/5)、西崎芽衣 (8/30～9/6)

○宿泊先 みらいハウス (ボランティアのための宿泊場所) 福島県双葉郡楡葉町上繁岡字中平 155-10

○協力 一般社団法人ならはみらい、楡葉町役場

2.活動の詳細報告

8月3日(水) 事前学習会

事前学習会は、現地の活動をよりよいものにするために、チーム作りと活動先について学ぶこと・関心を持つことを目的として開催した。参加学生に加え参加いただいた、一般社団法人ならはみらいの職員3名の方から楡葉町の現状や放射能についてご説明いただき、昨年度32便参加者も含めて、昨年の活動の様子や感じたことなどの引継ぎ質疑応答を行った。最後に、8月30日から楡葉町での活動でどんな属性の人にインタビューし、伝えたらよいかについての意見交換、活動に期待すること・目標の共有を行った。参加者には出発前学習会までに関心のあることを調べることを事前課題とした。



8月30日(火) 出発前学習会→京都駅出発

出発前学習会では、各自の事前課題について報告、不明な点についてその場で調べる時間をとり、現地の課題についての理解を深めた。最後に、現地でインタビューさせていただく方の名前と属性を伝え、インタビューを行う6つのペアをつくり、事後学習会後から出発までの時間は親交を深めるためペアごとに夕食をとった。



8月31日(水) 到着→現地視察(富岡町・楡葉町)→語り部の方を訪問→インタビュー練習→懇親会

8:00 いわき駅に到着後、各自朝食・視察等準備。

9:00 ならはみらいが用意してくださったマイクロバスで現地視察に向け移動。

10:00 楡葉町にあるJ-village(日本代表が合宿で使う大型サッカー練習場。現在は福島第一原子力発電所廃炉に向けた作業の拠点となっている)を視察。

ならはみらいから個人線量計(人数分)と空間線量計(2台)をお借りし、現地活動中携帯。

みらいハウスに荷物を置き、近隣の方への挨拶をした。



- 11:00 富岡町の視察をおこなった。(写真1参照)
- 11:45 1名へのインタビューを実施。
- 13:30 榎葉町役場の方から町の現状等を説明いただく。
- 14:00 永山ならばみらい局長に案内いただき、町内視察を実施。
- 15:00 語り部の方からお話を伺う。(写真2参照)
- 16:30 インタビュー練習を実施。この日見たものや聞いたことを基にペアごとにインタビューしあい、他己紹介をおこなった。(写真参照)
- 17:30 入浴@天神岬しおかぜ荘
- 18:30 ならばみらいのみなさんとの懇親会。
- 21:30 みらいハウスに戻り、就寝



9月1日(木)/9月2日(金) インタビュー・原稿作成

- 8:15 みらいハウス出発
- 9:00 葉町公民館3階研修室を拠点として、インタビューを受けていただいた方のご自宅や職場等を訪問し、インタビューを実施。(写真1参照) 空き時間には各ペアでインタビュー内容を整理。
- 17:00 インタビューが早く終わったペアが夕食の材料を購入、帰宿後、自炊をした。帰宿した者から交代で入浴。
- 19:00 夕食
- 20:00 インタビュー内容の原稿作成→各自就寝



9月3日(土) 原稿作成、ポスター作成

- 8:15 みらいハウス出発
- 9:00 榎葉町公民館1階研修室にて原稿作成を実施。インタビュー原稿を写真と合わせてポスター形式に整える際には、ならばみらい職員の方に確認の協力をいただいた。
- 12:00 各自、ここなら商店街などで昼食。
- 13:00 原稿・ポスター作成。
- 20:00 一旦帰宿。宿舎でも作業を続け、原稿、写真あわせが完成していたものからA3サイズに印刷して、ラミネートをかけて展示用ポスターを作成した。



9月4日(日) イベント出展→町民の方と懇親会

- 8:15 みらいハウス出発
- 8:30 未完成の記事の最終チェックと修正
- 10:00 「ホツァーレ 2016～復興記念の集い～」での出展ブー



ス準備。当日立命館大学にテントを用意していただき、パーテーションを設置し、昨年度の32便活動時に作成したポスターと今回作成したものをあわせて展示。

(写真1・2参照)



13:00 展示開始。9/23にインタビューさせていただいた方も来場いただいた。また、32便活動時にインタビューさせていただいた方にも来場され、32便の活動をまとめたフォトブックをお渡しするとともに、近況などを伺った。

17:00 展示終了後、片付けを実施。

18:00 みらいハウスのある松館地区の皆さんとの懇親会。(写真3・4参照)

22:00 各自帰宿し、就寝。



9月 5日(月) 仮設住宅訪問(32便で作成したフォトブックを届ける) → ならはみらい・檜葉町役場の方と懇親会 → いわき駅出発

10:30 みらいハウスチェックアウト。ならはみらい職員の方に点検をしていただき、出発。

11:30 昼食@道の駅よつくら

13:00 檜葉町の方が住む仮設住宅を訪問し、昨年度32便でインタビューさせていただいた方にフォトブックと32便に参加した学生からの手紙を届ける。(写真1参照)



17:00 ならはみらい、檜葉町役場の方々との懇親会(写真2参照)

20:45 いわき駅出発

9月 6日(火)

6:30 京都駅到着



9月16日（金）事後学習会

現地での活動を振り返り、達成できたこと、出来なかったことを話し合った。活動期間中に作成したインタビュー原稿を読み、印象に残った言葉やシーンを思い出しながらペアで想いを共有した。また、今回作成したインタビュー原稿やポスターをどんな人に見てほしいか、どのように活用できるかなどのアイデアを出し合った。



3.34 便の活動を終えて

○さまざまな属性の方からお話をきく

32便の活動を踏まえ、インタビューさせていただき方の選び方をならはみらいの方とも相談し、さまざまな属性の方にお話を聞くことができた。さらに榊葉町主催の大きなイベントでの展示ができたことで、インタビューさせて下さった方々に出来上がったポスターを見てもらうことができた。町民の方からは「これまでのこと、自分の気持ちなどを改めて考える機会になってよかった」という感想もいただいた。

○現地の状況を知る

参加した学生にとっては、短い時間ではあるがインタビューを通じて一人一人の想いに触れたこと、さらにその内容を原稿に起こし、ポスターにまとめ展示まで行うことは、達成感が強く残る活動となった。また、仮設住宅への訪問を通じて町内に暮らす方との生活の違い、個人線量計と空間線量計を貸していただき携帯することで原子力発電所事故のあった地域での暮らしについてなど、榊葉町の現状について考えることができた。

○地域の方々との交流

活動の受け入れ先であるならはみらいの皆さんの他に、榊葉町役場（復興推進課・教育総務課）の皆さんとも交流することができた。さらに今回は、ならはみらいが空き家を活用しボランティア活動の際の宿泊施設として提供している松館地区の一軒家に宿泊させていただいたが、地域の方々から差し入れや懇親会をしていただく等、交流が大きく広がった。立命館大学の教職員・学生が多方面から榊葉町に関わっており、町にとって立命館の関係性が深まっていることが感じられた。

○活動を継続する

34便には32便参加者も3名参加している。今回は32便の活動時にインタビューした方にお会いし、活動をまとめたフォトブックをお渡しすることができた。お会いする中で、1年間の環境やこころの変化についてもお話を伺うことができた。32便・34便を通して62人の方々一人一人の想いをインタビュー・ポスターとして取りまとめることができたが、それは榊葉町に暮らす方のごくごく一部であり、こうした活動を継続的に進めていくことが重要である。

なお、32便・34便のインタビュー・ポスターは10月30日の学園祭での展示を予定している。また、2017年3月11日に開催される「いのちの集い」とその関連企画等で災害復興支援室の様々な活動とともに展示等を行い、多くの方に榊葉町の一人一人の思いや現状を伝え遺していく。